



地域の福祉団体や農福連携を実施する企業と連携して、障害者や高齢者と協働した農作業、カフェ運営、新商品開発を実施。全国で珍しい農業高校における農福連携の取組。

基本情報

- 所在地：愛媛県伊予市
- 団体名：愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班
- 選定表彰：
 - ・令和2年ディスカバー農山漁村の宝 中国四国選定地区
 - ・えひめ地域づくりアワード・ユース 2023 最優秀賞
 - ・第74回日本学校農業クラブ四国大会 最優秀賞 等
- 主力商品：きくらげ鯛飯、きくらげつくね
- 取得認証等：－

取組の概要

- 地域との連携を目指した授業の一環として、「#伊予農福連携プロジェクト」を生徒が自ら立ち上げ。
- 伊予市内の福祉団体、ほっとネットいよしと連携し、高齢者や障害者に生き生きと仕事をしてもらうための「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」を開催。地域食材使用のスイーツの考案、調理や盛り付けを行った。高齢者・障害者スタッフは接客担当として活躍。
- 地域の施設が所有する畑、プランターを利用し施設利用者とともに気軽に楽しくをモットーに農福連携を実施。
- 農福連携を進めている企業、株式会社和光ワールド、一般社団法人greensightと連携し、自然農法の米・きくらげ・大豆を栽培し、商品化・メニュー化を目指す活動を実施。



ほっとネットいよしと連携したカフェ



プランターでの野菜の栽培



ノウフクJASきくらげ商品化

体制図

愛媛県立伊予農業高等学校

連携

地域の施設

- ・地域の施設
- ・グループホーム土香里
- ・ワークハウス睦美
- ・就労継続支援B型事業所日光里
- ・小規模多機能ホームあんこ
- ・ほっとネットいよし

連携

企業

- ・株式会社和光ワールド、
- ・一般社団法人greensight
- ・八戸協和水産株式会社

取組の成果

- イベントの際には高齢者・障害者スタッフに、最低賃金を支払っており、「達成感を得た」「また参加したい」と好評。
- 施設利用者と一緒に野菜や花の栽培・収穫を行い、施設の食事に使用。
- ノウフクJASきくらげを利用したランチメニューを4種類考案し、令和5年9、10月の土日で1,000食を提供。また、青森県の水産企業と連携し農福連携商品の企画・製造を協議し、「きくらげ鯛飯」、「きくらげつくね」のレトルト食品の販売が決定。

所在地▶愛媛県伊予市下吾川1433

連絡先▶TEL:089-982-1225 E-mail:－

ウェブサイト▶ <https://iyo-ah.esnet.ed.jp/>

【取組のプロセス】

令和4年

きっかけ

農福連携を通して、地域課題である共生社会の実現に尽力したいとの思いから「#伊予農福連携プロジェクト」を立ち上げ

障害者や高齢者との関りを開始

- 伊予市内の福祉団体「ほっとネットいよし」と連携して「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」を実施し高齢者、障害者スタッフと地域貢献。



「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」の様子

地域の施設と農福連携活動（11月）

- 地域の施設が所有する空いている畑とプランターを利用して施設利用者とともに気軽に楽しく農福連携をキーワードに野菜や花を栽培。収穫した野菜は施設の食事に使用。



プランターでの野菜の栽培

企業との連携

- 株式会社和光ワールドのきくらげ栽培作業に参加し、障害者と交流。
- 八戸協和水産株式会社と連携しノウフクJASの認証を受けたきくらげを使用した「きくらげ鯛飯」「きくらげつくね」のレトルト食品を開発。



道後のホテルにぎたつ会館でランチ販売

農福連携活動の発表

- 農業高校の甲子園と呼ばれる日本学校農業クラブ連盟の競技会において、これまでの取組活動を発表し、四国大会で最優秀賞を受賞したことで全国大会に出場。

「#伊予農福連携プロジェクト」の拡大

- 医療・保険分野での農福連携活動。
- 園芸療法やユニバーサル農園の実施。
- ノウフクJASきくらげを使用した商品開発を継続。



株式会社和光ワールド等と企業連携

令和5年

今後の展望

地域食材使用のスイーツを考案。カフェでの販売を実施

愛媛で唯一のノウフクJAS取得している（株）和光ワールドのきくらげの普及活動

道後のホテル「にぎたつ会館」と連携しきくらげ使用メニューを4種考案